

# 平成28・29・30年度 文部科学省指定 「人権教育総合推進地域事業」

## 取組と発表



2月16日(土)、高山市民文化会館にて平成30年度高山市人権講演会が開催されました。

その中で文部科学省指定による、清見地域の「人権教育総合推進事業」の発表が行われました。

清見中学校教頭の菱田正紀先生と地域部会長の土田靖さんが平成28年度から3年間、

地域・家庭・学校がひとつになって実践してきた内容や成果を報告しました。

この講演に参加された人権擁護委員、民生児童委員、まち協関係者等多くの皆さんがひとつひとつの発表を感心しながら聞いてくださいました。

「人権尊重のまち 清見」の実現に向けて、これからも活動を継続していきます。

## 「人権尊重のまち」宣言

- ・人を思いやる心を持ち、あいさつで笑顔を広げます。
- ・生まれや心身の違い、多様な考え方を互いに認め合い、誰とでも絆を深めます。
- ・誰もが溶け込める寛容な地域づくり、差別やいじめのない明るい地域づくりに努めます。



# 清見町まち協だより

第48号  
平成31年3月1日  
清見町  
まちづくり協議会  
事務所：きよみ館  
TEL.77-9516 (直通)

家庭の日は3月17日(日)です  
あいさつで みんなの笑顔 広げよう

清見小学校 6年生 山木 徹平

## 彦谷の里 雪氷まつり



2月9日(土)、卯の花街道沿いの彦谷の里にて「雪氷まつり」が開催されました。

今年雪が少なく開催がやぶまれていましたが、大勢の人々が参加し、盛大に開催することができました。

敷地内にはそりすべりや雪上宝探しを楽しむための大きな雪山が作られました。

雪氷まつりのお楽しみはケルメの数々。シカやイノシシのシビエに、ピザ釜で各自で焼いたオリジナルピザ、能登から直送された牡蠣が並び、皆さん大満足の様子でした。

ファイナレは雪中花火です。雪の彦谷の里が花火で美しく染まり、忘れられない思い出ができました。

### 三六 年生を送る会

1～5年生の歌のプレゼント

1年生から5年生の児童による、手づくりの送る会。ありがとうの気持ちにあふれた思い出に残るもので、6年生のみなさんはとても感動し、涙ぐむ姿も見られました。

2月6日(水) 清見中学校

今年三送会は「前代未聞!! ~やるしかないでしょ!~」をスローガンとし、実行委員会を中心に企画・運営を全て自分達で行いました。随所に趣向が凝らされた、心温まる三送会になりました。

2月15日(金) 清見小学校

当日音楽発表を披露し、100分間で完成させた合唱「アメイジング・グレイス」

花のアーチをくぐって入場

下級生に見送られ退場

6年生の息の合ったマズゲーム

ライカールは3年生の合唱

### わくわく教室 学級生募集

わくわく教室は「親子が共に参加する学級」です。親、そして子ども同士の交流を通して楽しい学級を作ってみませんか。

対象者	清見町在住の乳幼児及び保護者
活動日	月1～2回
年会費	500円(行事によって参加費必要)
×切	3月29日(金)
申込み先	高山市社会福祉協議会 清見支部 68-3522(直通)

※年度途中でも募集を行っています☆

### わくわくつうしん

2月14日(木、福祉センターにて、わくわくのおともだちはおやつづくりにチャレンジしました。ボールの中に白玉粉とジュースを入れて、こねこねこねこね。手のひらでおだんごにしたあと、先生にゆでてもらったよ。だんごがゆであがったら、フルーツをトッピング。白玉団子入りフルーツポンチが出来上がりました。みんなでおなかいっぱい食べたよ!とてもおいしかったなあ。

### きよみ歴史探訪 清見の神社シリーズ④ 福寄白山神社

通説では神社のおこりは鎌倉時代の元久3年(1206)と伝えられている。飛騨地方の白山信仰は元締め郡上の長瀬寺からの影響を大きく受けていると言われているが、その多くは鎌倉時代以降の勧請で、福寄白山社は飛騨における福寄村は豪族の福寄氏の手により、土地の開発文化の進展に一步先んじていて、中世(戦国時代)までは天台宗の寺院を置き、白山信仰もいち早く浸透したと考えられる。しかし中世以降の時代になると浄土真宗が普及され、僧法明による真宗道場の創始として近世に至ったと思われる。真宗寺院の興隆に抑えられた神社の経営は不振をきたわめた。明治10年8月の調査資料によれば、当時の白山社の規模はきわめて小さく、社殿3尺2寸(約96cm)に5尺8寸(約84cm)の祠堂を有するのみで、神器も神酒德利一対・献備台1基・灯明皿一対・幟二本・太鼓一個のみであった。しかし境内の山林は大変広く、かつて繁栄し部落民からの信仰が厚かったことを物語っている。

明治政府は神道を国教とすることをねらいとし、明治元年(1868)に神仏分離令を発令、「惟神道」(神の道にしたがうこと)を奨励した。また当社を調査しこの社格を村社とした。明治40年6月、白山社は神職階級料を供進すべき神社として指定申請をし、同時に社殿の改築を行っている。大正12年9月15日には新制村社、そして神職階級料供進社に指定された。

終戦後は政教分離によって村社制度は廃止され、宗教法人として昭和21年12月19日に神社庁に登録されている。(参考文献「清見村誌」)